

大野ひろ子の 議会報告



一般質問①

るべき介護の姿について

社会全体で高齢者の介護を支える仕組みとして始まった介護保険制度は、13年が経過しました。この間、地域密着型サービスの基盤整備が進み、制度自体も予防重視型システムへの転換など、介護保険制度は高齢者の暮らしや介護を支える仕組みとして定着しています。

2012年度の改正時には「介護予防・日常生活支援総合事業」が始まり、当市も介護予防の総合的なマネジメントに取り組んでいます。

過日、新聞でも報道された社会保障制度改革革国民会議の報告書によれば、若い世代も含めた「全世代型」の社会保障への転換、重点化と効率化の観点から、介護度が低い要支援の高齢者へのサービスを介護給付から切り離すことや介護の自己負担の引き上げなどが含まれています。

「介護の社会化」を後退させないためにどのように対応していくのか市の姿勢について質問しました。

答弁

地域包括支援センターの役割は、ケアマネジメントするに当たっては高齢者の方のプランを設計する。今後は、サービス提供者となるNPOやボランティア団体、また、コミュニティ団体との連携といったこともでてくることから、いつそうの機能強化を図ることが求められている。

一般質問②

学校給食の意義と役割について

子どもたちの食生活をめぐる問題が顕在化する時代に、学校給食は、子どもたちの栄養、楽しみであるだけではなく、食文化を伝える重要な教育の役割を担っています。9月から、鶴ヶ島市学校給食センター更新施設での給食が始まります。次世代を担う子どもたちが食べる学校給食、そこで使われる安全な食材の継続的な確保についてどのような体制をとられるのでしょうか。

また、環境への配慮を願い、残菜の処理と排水を考えた石けんの使用について改めて質問しました。

・ソーラーパネルの設置と節電のエコライフ促進事業とセットのエコポイント還元の地域経済応援事業は予想を上回る参加者でした。

・市道758号線は4月18日開通しました。

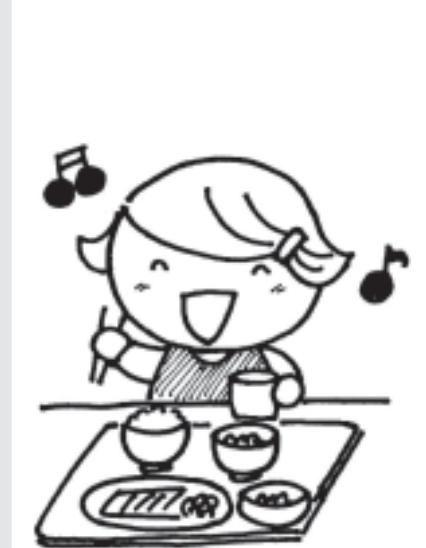
・第一小学校に防災井戸を設置し、市内全校にそろいました。現状は、飲むことはできません。今後、浄水器を準備していく予定です。

答弁



基準は人の命を守るためにあります。これまでも危険性が判明したり、課題があれば改正されてきました。子どもたちの安全を守るためにには基準を満たしていかなければいけないというわけではありません。

安心安全な食材の提供が学校給食の一番の使命であり、すべての食材の検査を実施して



社会保障改革によって、これまで培われてきた「介護の社会化」が後退しては意味がない。介護保険制度第6期の改定で市の裁量が問われるところです。

答弁

40歳以上の方65・1%がかかりつけ医を持っている。現在坂戸鶴ヶ島医師会と協力して、地域医療再生の取り組みを進め、様々な機関が一体的にサービスを提供し個人を多角的に見守れる体制づくりと、かかりつけ医の重要性について啓発していく。

第6期以降、団塊世代の高齢化から在宅介護の限界点を高め、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいく。予防給付も生活援助も今より個人負担増にならないと想定している。

これからは、心と心をつなぐような、困っている人、細かなところを救えるサービスが期待される。住民主体のサービスやボランティア活動等潜在的な資源も活用して、1人でも多くの高齢者が生涯現役で自立した生活ができる、多少機能が落ちても、地域、家庭で自立した生活が送れるというイメージを持つている。